

1果そう2果着果が「おさゴールド」の生育と果実品質に及ぼす影響

2011～2012年冬季、県北部では雪害が発生しナシ樹が折損被害を受けたため、早期収量回復の手段として1果そう^{注1)}に2果果実を着果させる方法を検討した。その結果、2果着果処理は樹勢への影響はなく収量も増加するが、果実が小玉化し着果跡の短果枝の充実が劣るため、樹齢等を考慮する必要がある。

内 容

香美町香住区隼人の「おさゴールド（中間台：二十世紀48年生）」樹を供試し、着果予定果そう^{注2)}のうち2分の1に2果着果させる樹、3分の1に2果着果させる樹、すべて1果着果とする慣行樹を各1樹設定した。収穫は9月11日に行い、収量と果実品質を調査した。樹体調査は12月11日を行った。

着果数（m²あたり）は、1/2・2果着果区で慣行比147、1/3・2果着果区で同136とほぼ設定値（それぞれ150、133）となった。

新梢の伸びは各区とも平均50cm前後であり、2果着果が樹勢に及ぼす影響はなかった。一方、2果着果区の着果跡に着生した短果枝数は2.3～2.6と慣行区と差はなかったが、そのうち花芽になっ

た数は慣行区より少なく、短果枝の充実は低下する傾向にあった。

収量は2果着果させた区で多くなったが、果実の大きさは、2果着果両区で小玉となり、果色もやや進んで早熟傾向であった。各区とも糖度に差はなかった。

24年生樹に対し、1986年から3年間同様の試験を行った結果、品質に差はなかったことから、2果着果処理は樹齢が進み老木化すると果実肥大に悪影響を及ぼすと考えられる。

普及上の注意事項

2果着果は樹勢の強い樹、比較的若齢の樹に限定するように留意する。

（北部 農業・加工流通部 真野 隆司）

（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

表 1果そう2果着果処理が「おさゴールド」の生育と収量及び果実品質に及ぼす影響(2012)

試験区	着果数 (個/m ²)	着果比 (慣行100)	新梢長 (cm)	着果跡の状況		収量 (kg/10a)	果実重 (g)	果色 ²⁾	糖度 (brix)
				短果枝数	うち 花芽数				
1/2・2果着果	7.86	147	48.6	2.6	1.8 b ¹⁾	2187 a	278.3 b	3.0 a	11.4
1/3・2果着果	7.28	136	53.5	2.3	1.3 b	2025 a	278.1 b	3.2 a	11.2
慣 行	5.36	100	52.5	2.6	3.1 a	1783 b	332.7 a	2.5 b	11.2

1) アルファベットの異符号間は5%水準で有意(tukey法)

2) 果実カラーチャートによる(数値は大きいほど熟度は進む)



注1) 果そう：1つの花芽が開花、結実した際に一群となる幼果の集合体。たいてい6～8果存在する。

注2) 着果予定果そう：実際に着果させる果そう。葉数が10枚以上ある充実した果そうを選ぶ。

注3) 短果枝：5cm程度の短い枝で、次年の花芽が着生する。

写真 摘果期の1果そう2果着果の状況